

# 東京学芸大学附属国際中等教育学校

## ソーシャルアクションチーム

高校生ボランティア・アワード2023

### 「中高生が創る、新しいカタチのソーシャルアクション」

私たちは、東京学芸大学附属国際中等教育学校ソーシャルアクションチームです。  
TGUISS Social Action Team (SAT) として、校内ではボランティア部として活動しています。  
2009年、ボランティアに取り組みたい！という思いを持った中学生が集まり、本校にボランティア部をつくる動きがはじまりました。「部活でボランティアをやる意味ってなんだろう？」と考え、たどり着いた答えは

**「校内の生徒の社会貢献活動を促進する」**

ということ。自分たちが率先して社会貢献活動に取り組むこと、校内の生徒にも機会を提供することで少しずつ活動の理念へと近づいていきました。

チームの発足から14年目、私たちは14年前と同じ目標を常に抱きながら日々活動に取り組んでいます。

私たちの活動の出発地点は、地域のイベントへのボランティア参加でした。地域の人々と触れ合い、学校の所在する東京都練馬区という場所の魅力を発見。今では練馬区役所の観光課との共同事業を行っています。

練馬を飛び出し、次に向かった先は宮城県の女川市でした。地震により被災した地域の人々と関わり、想いを聞き、会話を重ねることを通じて見つけたのは、**女川の人々に宿る希望の光**。キラキラした大人たちに魅了された私たちは、女川の自然も、空気も、人も大好きになったのです。ここで生まれた「jimoto」のコンセプトは、さまざまな地域に展開されてSATの大切な財産として受け継がれています。

途上国支援の活動は、SATとしての視野を広げました。ルームバンドをつくりお金を集め寄付へとつなげた経験は、国際的な活動の一步を踏み出すきっかけと、私たちにもファンドレイジングができるということを教えてくださいました。今ではケニアの学生に奨学金を集めるまでになりました。

地域創生と国際協力が活動の基盤として定着してきた頃、環境問題や人権問題にも取り組み始め、さまざまな社会課題を自らがモデルとなりながら解決のためにできることを行ってきました。

**繋がりを大切に、まずは自分のまわりから。**

地域創生・国際協力/途上国支援・環境問題/木育・人権問題…さまざまな社会課題に目を向けて活動をする中で、自分が今生きている社会がどのような社会なのかを認識することができると思います。どんな人がいて、どんな課題があるのか。自分自身がこの社会の一員であることを自覚し、自分のまわりをしっかりと見つけ、小さな一歩を積み重ねていくこと。一つ一つ自分にできることを考え、それらを達成していった先に、中高生が社会参画できる社会の実現が待っているということを常に考えながら、14年間築き上げてきた繋がりを大切にしていきます。

SATは今、社会課題に取り組む4つのチームと運営チームの5つの柱で、中高生が創る新しいカタチのソーシャルアクションを実現します。



**jimoto**チームでは、地域創生・地域活性化の活動に取り組んでいます。昨年度は、2023年度前期連続テレビ小説「らんまん」のモデルとなった牧野富太郎の功績を称えた、東京都練馬区にある牧野記念庭園のPR動画とマップを作成しました。さまざまなイベントでマップを配布し、のべ〇〇人に届けることができました。他にも、山梨県小菅村と長野県上田市にて、地域活性化に関する活動を実践的に学ぶ課題解決プログラム「スタディーツアー」を計画・実施し、jimotoの魅力について、地域創生について、また中高生の社会参画に関してのディスカッションを行いました。

- 今年度は、
  - 練馬区の活性化に関する活動
  - 上田市との共同イベントの実施
  - 特産品を用いたコラボ商品の開発を検討しています。

「jimoto」とは？

jimotoとは、自分が好きだと思える人、モノ、環境、暮らしがある地域のこと。関係性によらず、いくつでも持つことのできる心の拠り所です。



**kankyo**チームでは、間伐材の消費や日本の森林課題の課題など、環境問題についての啓発に取り組んでいます。

具体的には、間伐材を加工して作られた糸「木糸」を使用して作られたハンカチ「木糸ハンカチ」を、自分たちで開催したデザインコンテストで選ばれたデザインを印字し、販売しています。

手にとっていただく方々に、国産材の魅力について知ってもらおうと同時に、日本の森林課題について知ってもらうことを目的としています。

他にも、養蜂箱の生産の際の廃棄木材を使用して、企業の方と共同で木を使ったおもちゃの開発、販売を行いました。

これらの商品とともにさまざまなイベントに出店することを通して、人々に森林に関する現状が少しずつ広がっていることを実感しています。



今年度は、今までの開発してきた商品のさらなる販路の拡大を目指すと同時に、木育や森林課題の啓発を目的とした新しい活動の展開も企画しています。



### VISION

**中高生があたりまえに参画できる社会を実現する。**

中高生が社会貢献活動やボランティア活動に取り組みたいと思ったときに、「私には社会を変えることはできない」「まだ中高生だから…」と諦めてしまうことが多くあります。

私たちは、**中高生の社会参画をあたりまえにし、中高生にしかできないアプローチとチカラを増やしたい**と考えています。

### MISSION

**中高生が参画しやすい社会を創るために、中高生のモデルとなる。**

中高生があたりまえに参画できる社会を実現するには、まずは私たちが活動を通して社会参画を行い、多くの中高生のモデルとなることが重要だと考えています。そのために、さまざまな**社会課題に積極的に取り組み**、中高生でも活動を計画・実施、ひいては**組織的な運営**を行うことができるということを実践します。

SATの志

中高生による  
中高生のための社会参画



**kokusai**チームでは、途上国の支援などの国際的な活動に取り組んでいます。昨年度は、SDGs 4番「質の高い教育をみんなに」の解決に向けて実施した街頭募金事業「Go 4 Smiles!」を通して、認定NPO法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパンとともに、ケニアの女子学生への奨学金25万円を集めました。

また、国際協力に関するオンラインワークショップ「STEP FORWARD」も実施し、多くの

中高生における途上国の課題の認識・理解を高めました。

今年度は、主に2つのグループに分かれた活動を予定しています。どちらも共通して、**中高生に身近な方法で国際的な社会課題に関する正確な情報を伝えることで、社会貢献活動へのきっかけをつくることを目的として活動していきます。**

1つはケニアのストリートチルドレンの現状について、アフリカ布の「キテング」を使用した商品を通して伝えていきます。もう1つのグループでは、別の国に重きを置いて、**子どもの貧困**について、商品開発を通して伝えていきます。どちらも、より多くの中高生により正確な情報を伝えられるよう努めています。



**jinken**チームでは、さまざまな人権問題を取り上げ、認識・理解を高めるための活動に取り組んでいます。

昨年度は、**子どもの人権、LGBTQ+の方々の権利、そしてジェンダー間の差に関する課題**にフォーカスして活動を行いました。

子どもの権利条約については、**実際のケースを考えながら理解を深めることのできるワークショップ**を考案したり、**実践的に学べるクイズすごろく**を文化祭で実施するなど、「知らないことを楽しく学ぶには」ということを考えながらさまざまなアイデアを出しました。

LGBTQ+の方々の権利については、校内の生徒を対象とした**ワークショップを2回実施し、講師の方によるお話**などを通して「正しい理解ができた」「視野が広がった」という声を生徒から受けました。

今年度は、まずはじめに**私たちが理解すること**を目標とし、正しく理解できた課題・情報を共有することを徹底したいと考えています。

はじめの取り組みとして、ブライド月間である6月に合わせて、**LGBTQ+に関するポスターラリー**を校内で実施し、本校生徒における理解を促進します。



**hub**チームは、他の4チームとは異なり、SATの運営を行うチームです。

フェイスブックやインスタグラム、ウェブサイトなどの広報事業、校内での社会貢献活動の促進やボランティア募集の実施、マンスリーサポーター制度の運営や財務処理などのファンドレイジング、そして4チームの進捗管理など、中高生が自主的に管理し、自主的に運営し、活動を一から最後までやり遂げる上で欠かせないチームです。NPO的な組織運営を目指して、約60名のメンバー一人ひとりが取り組みたい活動に取り組めるよう、サポートとマネジメントを行います。

### SATの夢

**中高生があたりまえに参画できる社会を実現する。**

これがSATの夢であり、14年間をかけて積み重ねてきた活動です。

私たちの夢は、全国の中高生の夢をカタチにすること。

「こんな社会を創りたい！」「こんな活動をしてみたい！」といった明るく希望にあふれる夢を夢で終わらせないこと。そのために、私たちがまずは夢を実現してロールモデルとしての姿を確立したいと考えています。

**自分のまわりの課題に目を向けて、夢のままになっている現状を解決することで私たちの夢を実現すること。その輪を広げること。**

これが、東京学芸大学附属国際中等教育学校ソーシャルアクションチームの夢であり、新しいカタチのソーシャルアクションです。



2009年 東京学芸大学附属国際中等教育学校ボランティア部として創立。  
2019年 創立10周年をむかえにそのボランティアにとどまらない活動から、ソーシャルアクションチームと改称。

Vision : 「中高生があたりまえに参画できる社会を実現する。」  
Mission : 「中高生が参画しやすい社会を創るために、中高生のモデルとなる。」  
主な活動 : 地域の魅力や課題を発見・発信・解決する地域に根ざした活動から、国際協力や、寄付のチカラについての教育、環境問題などと多岐に渡って活動しています。これからはたくさんの人とのつながりを大切に、中高生の社会貢献活動の可能性を広げていきます！